



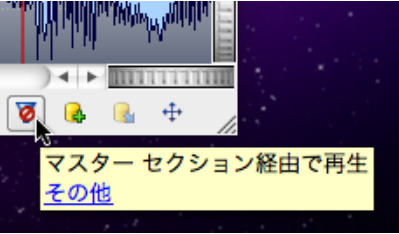
## WaveLab 7.1, WaveLab Elements 7.1 新機能/改良点

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<b>範囲インジケータ</b> オーバービューのタイムルーラーに、メインビューでの表示範囲が示されるようになりました。この範囲インジケータをクリック&ドラッグすることにより、表示範囲の変更や移動が行え、スクロールやズームが行いやすくなります。範囲インジケータ内のタイムルーラーをドラッグして拡大縮小したり、マーカーを移動したりする場合、[Ctrl] / [command]キーを押して範囲インジケータの移動機能を無効に行います。「オプション (Option)」メニューの「オーディオファイルの編集設定 (Audio File editing preference)」にある「オーバービュー：波形エリアにも範囲インジケータを表示 (表示機能のみ) (Overview: passive range indicator also covering the waveform)」(初期値はオフ)をオンにすると、波形エリアにも範囲インジケータが表示されます。	全グレード	オーディオファイル
<b>マウスホイールボタンでの波形ドラッグ</b> オーディオモニターワークスペースと同様、オーディオファイルワークスペースでもマウスのホイールボタンをドラッグすることで波形をスクロールできます。	全グレード	オーディオファイル
<b>処理完了の通知</b> オーディオファイルの編集・レンダリング・保存が完了した際、ステータスバーに数秒間処理に関する情報が表示されます。 例：”レベルのノーマライズ“を実行しました。所要時間：10s	全グレード	オーディオファイル
<b>タブ名の色によってファイルの種類やファイルの状態を確認可能</b> ▼オーディオファイルワークスペース：デコードしたファイルを参照している場合 (例えばMP3ファイルを開いた場合)、タブ名が青色で表示されます。 ▼すべてのワークスペース：新規にファイルを開いて保存していない状態の場合、名前「名称未設定 (untitled)」が紫色で表示されます。	全グレード	すべてのワークスペース
<b>タイムストレッチ画面の機能拡張</b> タイムストレッチの設定項目をより分かりやすく配置し、編集しやすくなりました。	WaveLab 7 / WaveLab Elements 7	オーディオファイル
<b>DIRAC 3 タイムストレッチの強化</b> 最新のDIARAC 3タイムストレッチを搭載 ▼「書き換えモード (Transcribe mode)」を新たに搭載しました。400%まで対応するタイムストレッチモードで、音楽素材の重要な情報をできるだけ損なわずにタイムストレッチ・ピッチシフトが行えます。 ▼処理速度が最大200%に改善しました (処理モードやWindowsかMacかによって異なります)。	WaveLab 7	オーディオファイル

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p>「所在不明ファイル (Missing files)」の取り扱い</p> <p>オーディオモンタージュを開く際にオーディオファイルが見つからない場合、「所在不明ファイル (Missing files)」画面が表示されファイルのリマップが行えるようになりました。</p>	全グレード	オーディオモンタージュ
<p>オーディオモンタージュのクリップの長さを表示</p> <p>オーディオの範囲が選択されていない場合、ステータスバーの時間フィールドにフォーカスしたクリップの長さや（クリップが存在する場合）やオーディオモンタージュの長さを表示します。</p>	全グレード	オーディオモンタージュ
<p>プラグインリソース管理の改善</p> <p>オーディオモンタージュでプラグインを使用してレンダリングする際、一度プラグインをオフにしてリソースを開放し（再生している場合は停止します）プラグイン処理用にリソースを割り当てます。これは多くのプラグインにリソースを割り当てられないハードウェアベースのプラグインを使用している場合に有効です。再生を開始すると再びプラグインはオンになります。</p> <p>この機能のオン/オフ（WaveLab 7のみ）は、「オプション (Options)」メニュー&gt;「モンタージュ環境設定 (Audio Montage Preferences)」&gt;「アクティブなモンタージュ (Active Audio Montage)」にある「レンダリング実行前にプラグインをリセット (Reset plugins before rendering)」で行います（初期設定ではオンになっており、そのままの設定でのご使用をお勧めいたします）。</p>	全グレード	オーディオモンタージュ
<p>「オーディオファイルからオーディオモンタージュを作成 (Convert Audio File to Audio Montage)」画面（「編集 (Edit)」メニュー）に新オプション追加</p> <p>「標準リージョンマーカーの位置で分割 (Split at generic region markers)」オプションを追加しました。</p>	全グレード	オーディオファイル / オーディオモンタージュ
<p>「リージョンを作成 (Region creation)」画面</p> <p>マーカーを使ったリージョン作成作業の効率を上げるために、「選択範囲からリージョンを作成して名前を設定 (Create/Name region from selection)」機能が追加されました。ショートカットは[Ctrl]/[command] + [R]です。設定時に表示される画面でリージョン名の設定ができます。この機能はオーディオモンタージュでも使用できます。CDトラックの範囲を素早く設定する際に便利です。</p> <p>ご注意：前のバージョンではこのショートカットに別の機能を割り当てていましたが、多くの方がリージョン編集を行うこともあり、また「R」が「Region」の頭文字でもありますのですぐに何のショートカットか連想できるようにショートカットキーを変更しました。</p>	全グレード	オーディオファイル / オーディオモンタージュ
<p>「名前 (Name)」編集欄に「履歴 (History)」メニューが追加されました。</p> <p>名前を設定する際にそれまで使用された名前から選ぶことができます。作業効率の向上が図れます。</p>	全グレード	一般機能
<p>オーディオモンタージュのファイル ブラウザーからリージョンをドラッグした際のクリップに表示される名前を変更</p> <p>オーディオモンタージュワークスペースにあるファイル ブラウザー ツールウィンドウのリージョンからドラッグ&amp;ドロップでリージョンを読み込んだ場合に、クリップの名前にリージョンの名前が使用されます。</p>	全グレード	オーディオモンタージュ

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>トラックレベルの微調整</b></p> <p>マウスのホイールを使ってトラックレベルをより細かく設定できます。その場合、トラック スライダー上にマウスを置き、[Alt] / [option]キーを押しながらホイールを使用して微調整します。</p>	全グレード	オーディオ モンタージュ
<p><b>ファイルブラウザー画面にリージョンパネルを追加</b></p> <p>WaveLab 7と同様にWaveLab Elements 7 / WaveLab LE 7でもファイルブラウザー画面にリージョン画面が表示されます。</p>	WaveLab Elements 7 / WaveLab LE 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>「オーディオファイルからオーディオモンタージュを作成 (Convert Audio File to Audio Montage)」搭載</b></p> <p>オーディオファイルワークスペース上にあるオーディオファイルを、オーディオモンタージュワークスペースにワンアクションで開きます。WaveLab 7にある機能を受け継ぎました。</p>	WaveLab Elements 7 / WaveLab LE 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>WaveLab Elements 7のトラック数を増加</b></p> <p>最大で3トラックまで作成できるようになりました。</p>	WaveLab Elements 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>「Ducker」プラグインの追加</b></p> <p>WaveLab Elementsに「Ducker」プラグインが追加されました。下段のトラックのレベルに従って、オーディオ クリップのレベルを変更します。</p>	WaveLab Elements 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>DDPファイル互換性強化</b></p> <p>他社アプリケーションで作成されたDDPファイルの読み込みを強化しました。</p>	WaveLab 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>CDレポート強化</b></p> <p>ヘッダーが編集できるようになりました。</p>	WaveLab 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>「時間選択範囲を消去 (Erase selected time range)」</b></p> <p>選択範囲の音を無音にします。オーディオモンタージュ ワークスペースの「編集 (Edit)」メニューに追加されました。このコマンドのショートカットは [Backspace] (Windowsの場合) / [delete] (Macの場合) キーに割り当てられています。</p>	WaveLab 7	オーディオ モンタージュ
<p><b>DDPのチェックサムファイル (MD5) 書き出し</b></p> <p>Windowsの場合「オプション (Options)」メニュー、Macの場合「WaveLab 7」メニュー&gt;「環境設定 (Preference)」&gt;「CD-Rへの書き込み (CD Burning)」に「チェックサムファイル (MD5) 書き出し (Write checksum file (MD5))」が追加されました。このオプションをオンにするとWaveLabはMD5ファイルも含めてDDPを書き出します。これはチェックサム的一种です。</p>	WaveLab 7	CDライティ ング

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>「最近使用したファイル」リストの強化</b></p> <p>ファイルを書き出した後、それをWaveLabで開いていない場合、最近使用したファイルのリストに表示されます。その場合、最近使用したファイルリストのアイコンに小さな「保存」アイコンが元のアイコンに重なって表示されます（Windowsのみ）。</p> <p>例えば、MP3ファイルを保存した場合、通常と異なるアイコンと共にMP3ファイルの名前が最近使用したファイルリストに表示されます。いったん開いて閉じると元のアイコンに重なって表示されている「保存」アイコンが消えます。</p> <p>この機能によりWaveLabが最近書き出したファイルを簡単に特定して開くことができます。</p> <p>バッチ処理によるファイルの書き出しには、この機能に対応していません。</p>	全グレード	一般機能
<p><b>テンプレートの強化</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オーディオファイル：オーディオ特性（サンプリングレート、ビットレート、チャンネル数）を設定したテンプレートを作成できます。また保存の際のオーディオファイルフォーマットを指定できます。「名前を付けて保存(Save as)」か「実行 (Render)」画面が表示されたとき、関連付けされたオーディオファイルフォーマットが設定されます。        ご注意：ファイルを保存後開くと、これらテンプレートの設定は反映されません。</li> <li>オーディオモンタージュ：マーカー、クリップ、トラックエフェクトを含めることができます。また保存の際のフォーマットも関連付けることができます。「実行 (Render)」画面を開いたとき、関連付けされたオーディオファイルフォーマットが設定されます。        ※Macで保存したはずのテンプレートを開くことができない場合、下記階層にフォルダーを作成して、もう一度テンプレートを作成してみてください。        Macintosh HD/ユーザー/（アカウント名）/ライブラリ/Preferences/WaveLab 7またはWaveLab Elements 7/Presers/Templates/AudioMontage/</li> </ol> <p>「ファイル (File)」メニューから「新規 (New)」を選択すると「テンプレートから作成 (Create from Template)」画面が表示され作成したテンプレートを選んで開くことができます（テンプレートを保存した後、初期値としてテンプレートを定義していない場合）。</p> <p>「テンプレートから作成 (Create from Template)」画面で初期テンプレートの定義ができます。一度初期値としてテンプレートを定義すると「ファイル (File)」メニューから「新規(New)」を選択した際に「テンプレートから作成(Create from Template)」画面は表示されません。</p> <p>また「ファイル (File)」メニューに「テンプレートから新規作成 (New from)」が追加されました。これを選ぶことで、新規画面を開く際にテンプレートから選んで作成できます。</p>	WaveLab 7 / WaveLab Elements 7	一般機能

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>「変数とテキスト スニペット (Variables and Text Snippets...)」</b></p> <p>「オプション (Options)」メニューに「変数とテキスト スニペット (Variables and Text Snippets...)」が追加されました。テキスト変数は「メタデータ (Meta-data)」のテキストフィールドやCDレポートの「ヘッダー (Header)」などで使用できます。変数はファイルを書き出す前に書き換えられます。例えば、下記変数がある場合、</p> <pre>%Engineer%</pre> <p>これは下記を書き出す時に置き換えられます。</p> <pre>John Smith</pre> <p>加えて、編集可能なリスト「テキスト スニペット」が有ります。テキスト スニペットは、ファイル名やメタデータなどのテキストフィールドからアクセスできます。これにより編集作業で同じテキストを繰り返してタイプするのを避けられます。</p>	WaveLab 7	一般機能
<p><b>マスターセクションパネルの折り畳み状態の保存</b></p> <p>マスターセクションパネルのエフェクトセクションやマスターレベルセクションの折り畳み状態もレイアウトとして保存できます。</p>	全グレード	マスターセクション
<p><b>「マスターセクション経由で再生 (Play through Master Section)」でバイパスした際のアイコンの視認性向上</b></p> <p>マスターセクションを通して再生するかしないか (エフェクトなどをバイパスするかしないか) を設定する編集ウィンドウ右下にある「マスターセクション経由で再生 (Play through Master Section)」で、バイパスにした状態のアイコンを以前より目立たせました。</p> 	全グレード	マスターセクション
<p><b>新しいバイパススイッチ</b></p> <p>このオプションは、マスターセクションかエフェクトツールウィンドウで使用しているVSTプラグインで利用できます。プラグインを開いた際に、新しいポップアップメニューが確認できます。ここでは2つのオプションを選べます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼「エフェクトをバイパス (Bypass effect)」：通常バイパスです。エフェクトが掛かっていない音が再生されます。</li> <li>▼「ソース信号をバイパス (Bypass source signal)」：オリジナルを差し引いたエフェクト音が再生されます。</li> </ul> <p>Declickerなどのエフェクトで除去されたノイズを確認する際に便利な機能です。またEQがどれくらい掛かっているかをモニターする際にも使用できます。</p> <p>ご注意：まれにプラグインによっては処理信号の位相がずれることがあります。その状態で「ソース信号をバイパス (Bypass source signal)」を使用した場合は完全なエフェクト音のみモニターは行えません。</p>	WaveLab 7	マスターセクション

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>スペクトロスコープの表示レベルの変更</b></p> <p>表示レベルを（あらかじめ設定された）3つのオプションから選択できます。フローティングメーターと録音メーターで独立して設定可能です。</p>	WaveLab 7 / WaveLab Elements 7	メーター
<p><b>プラグインウィンドウの強化</b></p> <p>▼プラグインウィンドウのタイトルバーをタイプ別に色分けしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モンタージュクリップ (赤)</li> <li>・ モンターシュトラック (緑)</li> <li>・ マスターセクション プリマスター (青)</li> <li>・ マスターセクション ポストマスター (紫)</li> </ul> <p>これにより複数のプラグインを表示した場合の視認性が向上します。 ちなみに、これはオーディオシグナルの進行方向に合わせて、光のスペクトラム(赤から紫へ)に合わせて色分けしています。</p> <p>▼プラグインメニューにタイトルバーからアクセス可能になりました。マスターセクションやプラグインツールウィンドウに戻らなくてもプラグインの変更ができます。</p> <p>▼タイトルバーにエディット画面を畳み込むためのボタンが用意されました（タイトルバーのダブルクリックでも同様の動作になります）。 [Ctrl] / [command]キーを押しながら画面の閉じるボタンをクリックすると、プラグインをスロットから削除できます。</p> <p>▼一括処理で呼び出したプラグインはこれまでと同様の動作です。</p> <p>プラグインのタイトルバーカラーに合わせて、GUI全体のカラーリングをいくつか調整しました。</p> <p>この拡張機能はWindowsの場合「オプション (Options) メニュー、Macの場合「WaveLab」メニュー &gt; 「環境設定 (Global preference)」 &gt; 「表示形式 (Display)」内にある「拡張タイトルバーを表示 (Display enhanced title bar)」でオン/オフの切り替えができます。</p>	全グレード <i>WaveLab LE 7 では一部機能は 使用できません</i>	プラグイン
<p><b>プラグイン画面の改善</b></p> <p>分散値を持ついくつかのパラメーター（例えばCrystal Resampler）は、スライダーではなくチェックボックスかコンボボックスに変更されました。 さらに、[Ctrl] / [command]キー を押しながらスライダーをクリックすると設定が初期値にリセットされます（VST2プラグインは非対応）。</p>	全グレード	プラグイン
<p><b>新しいVST3プラグイン「Stereo Tools」</b></p> <p>ステレオ録音とM-S（Mid/Side）方式で録音された音の変換が行えます。チャンネルスワップ、各チャンネル独立しての位相の反転も行えます。 また2つのシンプルなプラグインも用意されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ LR to M/S</li> <li>・ M/S to LR</li> </ul> <p>これらプラグインに設定画面はなく、プラグイン ラックでこれらを選択するとその名前だけが表示されます。</p>	WaveLab 7	プラグイン

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>レンダリング時の名前設定の動作を変更</b></p> <p>マスターセクションの「実行 (Render)」ボタンをクリックして表示される画面で、「場所 (Where)」欄にあるフォルダアイコンをクリックして表示されるポップアップメニューから「ファイルを参照 (Browse files)」を選択すると、「名前を付けて保存 (Save as)」画面が表示されます。これにより 画面の「ファイル名」または「名前」欄で名前を設定できます。</p>	全グレード	書き出し / 読み込み
<p><b>特定範囲のリージョンを書き出し</b></p> <p>「実行 (Render)」画面の設定項目に「1つのリージョン (One region)」が追加されました。</p>	全グレード	書き出し / 読み込み
<p><b>メタデータの取り扱いを強化</b></p> <p>「オーディオ ファイルの形式 (Audio File Format)」画面で、メタデータに関する (例えばMP3 ID3タグやBWF情報など) 設定が用意されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼「なにも保存しない (Don't save anything)」</li> <li>▼「ソースファイルから継承 (Inherit from source file)」</li> <li>▼「この設定専用 (Specific to this configuration)」</li> </ul>	全グレード	書き出し / 読み込み
<p><b>「リージョン名を設定 (Set region name)」</b></p> <p>マスターセクションの「実行 (Render)」画面で「名前 (Name)」欄をクリックして表示される「機能 (Special)」メニューに、「リージョン名を設定 (Set region name)」が追加されました。</p>	全グレード	書き出し / 読み込み
<p><b>FLAC Lossless Audio Codecサポート (読み込み/書き出しとメタデータ)</b></p> <p>WindowsではFLACはユニコード名前はサポートしていません。</p>	WaveLab 7 / WaveLab Elements 7	書き出し / 読み込み
<p><b>バックグラウンドでのオーディオファイル保存状況の表示</b></p> <p>レンダリング時と同じように、バックグラウンドでオーディオファイルを保存中に画面下にプログレス バーが表示されるようになりました。</p>	WaveLab 7	書き出し / 読み込み
<p><b>Cubase/Nuendoとの親和性を向上</b></p> <p>Cubase/NuendoのMediaBayからドラッグ&amp;ドロップまたはコピー&amp;ペーストでオーディオファイルのみ読み込みが可能です (「VST Sound」フォルダ内のサンプルは読み込めません)。コピー&amp;ペーストの場合はアクティブになっている Cubaseがコピーを終了するまでファイルを占有するので、ドラッグ&amp;ドロップでの読み込みをお勧めします。WaveLabからCubase/Nuendoにファイルをドラッグ&amp;ドロップすることもできます。その場合はファイルタブをドラッグしてください。選択範囲のオーディオはコピーできません。</p>	全グレード	Steinberg製品との親和性
<p><b>画面分割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼画面分割するスプリッターが見やすくなりました (スプリッターの上にマウスを置いた時など)。</li> <li>▼スプリッターをダブルクリックすると、パネルの開閉が行えるようになりました (ツールウィンドウを除く一部のスプリッター)。</li> </ul>	全グレード	ユーザーインターフェース

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>ツールウィンドウの強化</b></p> <p>▼専用/共有ツールウィンドウにアイコンが付き、区別しやすくなりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専用ツールはタイトルバーが明るい色でタイトルは黒。フローティングさせた場合も、ワークスペースに戻れるようにタイトルバーを保持します。共有ツールは暗い色のタイトルバーに黒のタイトル。フローティングさせた場合はOS標準のタイトルバーに変わり、ワークスペースに依存しないことを表します。</li> </ul> <p>▼ドックの中のツールウィンドウにはタイトルバー名の直前にタイトルバー折り畳みボタンを新装備。折り畳むことで省スペース化を図れます。その場合、ごく細いタイトルバーが残ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「タブ表示ウィンドウのタイトルバーを自動フォールド (Auto-fold title bars of tabbed windows)」 / 「分離したウィンドウのタイトルバーを自動フォールド (Auto-fold title bars of isolated windows)」オプション (Windowsの場合「オプション (Options)」メニュー、Macの場合「WaveLab」メニュー &gt; 「環境設定 (Global preference)」 &gt; 「表示形式 (Display)」) : これらオプションは初期の状態ではオフになっています。オンに設定すると、マウスをタイトルバー付近に持っていくとタイトルが開きます。この場合、タイトルバー名の直前にある折り畳みボタンは非表示になります。ワークスペースにある共有ツールウィンドウの空のドックではこの機能は作動しません。</li> </ul> <p>▼「フローティングとドッキングの優先順位 (Floating versus Docking priority)」ボタン：フローティングツールをドッキングさせずに動かしたい場合はこのボタンをオンにします。[Ctrl] / [command]キーを押しながらドラッグでも同様の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専用ツールウィンドウがフロートかつリサイズされた場合、ワークスペースレイアウトとして記憶され、次回にフロート化した場合も同じ場所に表示されます。</li> </ul> <p>▼各ツールウィンドウのアイコンがツールウィンドウメニューにも表示されるようになりました (Windowsのみ)。</p> <p>▼専用/共有ツールウィンドウ用のショートカットを設定できます (「オプション (Options)」メニュー &gt; 「キーボードショートカットの編集 (Customize commands)」 &gt; 「ワークスペース (Workspace)」)。</p> <p>▼コマンドバーに各専用ツールウィンドウを切り替えるスイッチを表示できます。設定方法は、オプション (Options)」メニュー &gt; 「キーボードショートカットの編集 (Customize commands)」 &gt; 「ワークスペース (Workspace)」 &gt; 「専用ツールウィンドウ (Specific tool windows)」の「バー (Bar)」欄で、コマンドバーに表示する項目にチェックを入れます。これにより、最初は専用ツールウィンドウを閉じておき、ショートカットやボタンのクリックで目的のツールを呼び出すことができるので、小さいディスプレイでの作業時に便利です。</p> <p>▼共有ツールウィンドウがフロート化された場合、ワークスペースに残った空ドックには大きなボタンが表示され、それをクリックするとコンテンツを呼び出すことができます。</p>	<p>全グレード WaveLab LE 7 では一部機能は 使用できません</p>	<p>ユーザーインターフェース</p>



新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>「キーボードショートカットの編集 (Customize commands) 」画面の強化</b></p> <p>コマンドの検索機能が搭載され、すぐに目的のコマンドの場所を見つけられるようになりました。検索の結果(表示されているコマンド)が「表示をリセット(Reset)、印刷の対象になります。</p> <p>またメニューとサブメニューが太字表示され、より見やすくなりました。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>スイッチャーの強化</b></p> <p>スイッチャーボタンにLEDが追加され、ウインドウの状況が把握しやすくなりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼LEDランプ無し &gt; 該当ワークスペースが無い場合。</li> <li>▼緑色LED &gt; 該当ワークスペースがアクティブな場合(全てのショートカットが使用可能)</li> <li>▼暗いLED &gt; 該当ワークスペースがアクティブではない場合。</li> <li>▼オレンジ色LED &gt; 該当ワークスペースの前面に他のプラグインなどの画面が表示されている場合。この場合ワークスペースは実質アクティブ状態ではないのでほとんどのショートカットは使用できません(MacではWindowsよりも多くショートカットが使用できます)。ワークスペースを一度クリックする事ですぐにアクティブの状態に戻す事が出来ます。</li> <li>▼赤色LED &gt; アクティブな状態ではないワークスペースが前面に表示されている。他の画面がアクティブの状態か何か他の理由でワークスペースがアクティブではない続けている状態です。他の画面を閉じたときにもう一度ワークスペースをアクティブにすることが出来ます。</li> <li>▼暗い赤色LED &gt; ワークスペースが前面に表示されていない状態です。他の画面がアクティブになっています。他の画面を閉じたときだけワークスペースはアクティブになります。</li> <li>▼紫色LED &gt; ワークスペースは前面に表示されているがWavelabがアクティブでない状態です。Wavelabをアクティブすればそのワークスペースはアクティブになります。</li> <li>▼暗い紫色LED &gt; ワークスペースが表示されているが前面ではなく、またWaveLabもアクティブではない状態です。</li> </ul> <p>コントロールウィンドウボタンの動作もわずかに変化しました。コントロールウィンドウがアクティブな画面の場合、クリックする事でその画面を閉じてしまいます(他のワークスペースがある場合)。</p> <p>アクティブなワークスペースでは以下のショートカットが利用できます。</p> <p>[Shift]キーを押しながらクリック：新しいドキュメントを開きます(ファイル画面を開きます)。</p> <p>[Control] / [command]キーを押しながらクリック：新しい対応するタイプのドキュメントを作成します。</p> <p>[Control] / [command] + [Shift]キーを押しながらクリック：これは、テンプレートから新しいドキュメントを作成するためのテンプレート画面を開きます(WaveLab 7のみ)。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>より多くのポップアップメニューを表示</b></p> <p>Macでより多くのポップアップメニューが表示されるようになりました。作業効率を上げることができます。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>ワークスペース ドキュメント タブの進化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼新規ファイルを開いたとき、そのタブが現在アクティブなタブの次に作成されます。</li> <li>▼タブを閉じたときにすぐ右のタブをアクティブ状態にできます。この動作を変更する場合は、Windowsの場合「オプション (Options)」メニュー、Macの場合「WaveLab」メニュー&gt;「環境設定 (Preference)」&gt;「表示形式 (Display)」の「アクティブなタブを閉じたときの動作 (When closing the active tab)」で設定を行います。</li> <li>▼複数のファイルを同時に開いたとき、新しく開いた最初のファイルが一番左のタブとしてアクティブになります。</li> </ul>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>タブビジーインジケータ</b></p> <p>レンダリング中に、実行中のタブに処理中であることがわかるアニメーションが表示されるようになりました。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>処理時間表示</b></p> <p>処理状況を表すダイアログの中のプログレスバーと共に、経過と残り時間が表示されます。ダイアログ以外にも、レンダリング中のオーディオウィンドウの下に表示されるプログレスバーでも確認できます。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>タブのコンテキストメニューにファイル名コピー機能を追加</b></p> <p>タブを、Windowsの場合は右クリック、Macの場合は[control]キーを押しながらかlickすることで表示されるポップアップメニューに、ファイル名(全体や一部)のコピーが可能な「クリップボードへ (To clipboard)」を搭載しました。「ファイル (File)」&gt;「機能 (Special)」からも設定できます。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>ツールウィンドウの判別</b></p> <p>空のツールウィンドウはフェードのかかった大きなアイコンにより容易に判別できるようになりました。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>ステータスバーテキストフィールドの視認性向上</b></p> <p>ステータスバーテキストフィールドの視認性を向上し、ファイルの状態や処理状況がより確認しやすくなりました。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>「名前を付けて保存 (Save as)」を強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼「オーディオファイルの保存 (Save Audio File)」画面(「ファイル (File)」メニュー&gt;「名前を付けて保存 (Save as)」)に名前を入力すると、選択したフォルダ内にあるファイルのうち、同じ文字で始まるすべての名前が自動的にポップアップ表示されます。</li> <li>▼「ファイル名 (Name)」欄の右側にあるアイコン(ハードディスクに「?」マークが付いたアイコン)をクリックするとフォルダ内にあるファイルの名前が表示されます。</li> <li>▼「オーディオファイルの保存 (Save Audio File)」画面では、状況に応じて画面の下側(ボタンの上)に「i」のアイコンが表示され、保存状況を説明するフィードバックメッセージが表示されます。</li> </ul>	全グレード	ユーザーインターフェース

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>スイッチャーバーのワークスペース内埋め込み</b></p> <p>スイッチャーバーをワークスペース内に埋め込むことができます。表示/非表示が可能です。初期設定では埋め込まれた状態になっています。独立して表示されているスイッチャーバーと同様に機能しますが、各ワークスペース内に固定して表示されているので他の画面に隠れることなくスイッチャーに簡単にアクセスできます。初期設定ではWaveLabが他のアプリケーションのバックグラウンドになった場合に（独立した）ウィンドウスイッチャーバーが表示されます（Windowsのみ）。この動作の切り替えはWindowsの場合「オプション（Options）」メニュー、Macの場合「WaveLab」メニュー&gt;「環境設定（Preference）」&gt;「表示形式（Display）」で行います。</p> <p>またスイッチャーバーに表示する内容を変更できます。その場合は、スイッチャーバー上でWindowsの場合は右クリック、Macの場合は[control]キーを押しながらクリックして表示されるメニューで設定を行います。バーのサイズ、配置場所、表示/非表示設定は各ワークスペースレイアウトに保存されます。設定内容（バー上に表示されるボタン）はすべてのワークスペースレイアウトで共通です。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>「タブにファイル拡張子も表示する（Display file extension in tabs）」</b></p> <p>このオプションをオンにすると、タブにファイル名と共に拡張子が表示されます。例えば、「Piano」ではなく「Piano.mp3」と表示されます。拡張子を表示するとより多くのスペースが必要となりますが、オーディオファイルワークスペースで様々なフォーマットのファイル进行处理する際にファイルの種類を簡単に把握して作業が行えるので便利です。オプションをオフにする場合は、「オプション（Options）」メニュー&gt;「オーディオファイルの編集設定（Audio File Workspace's preferences）」&gt;「編集（Edit）」タブで行います。</p>	全グレード	オーディオファイル
<p><b>「アクティブなファイルの場所をタイトルバーに表示（Display active file path in title bar）」</b></p> <p>このオプションは初期値ではオンになっています。オフにする場合はWindowsの場合「オプション（Options）」メニュー、Macの場合「WaveLab」メニュー&gt;「環境設定（Global preferences）」&gt;「表示形式（Display）」で行います。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>「すべてを保存（Save all）」画面の改良</b></p> <p>「種類（Type）」欄が追加されました。保存するファイルを特定する際に便利です。</p>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>マーカーヘッドをダブルクリックした場合の動作を変更</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼マーカーヘッドをダブルクリックするとそのマーカーポジションにカーソルを移動します。</li> <li>▼[Ctrl]/[command]キーを押しながらマーカーヘッドをダブルクリックするとそのマーカーポジションから再生を開始します。</li> <li>▼[Alt]/[option]キーを押しながらマーカーヘッドをダブルクリックするとマーカーツールウィンドウを表示します。</li> </ul>	全グレード	ユーザーインターフェース
<p><b>コントロールウィンドウの「タイトルバーとメニューを表示しない(Hide frame)」設定をレイアウトに保存可能</b></p> <p>コントロールウィンドウの「タイトルバーとメニューを表示しない(Hide frame)」の設定状態をレイアウトとして保存できます。</p>	WaveLab 7	ユーザーインターフェース

新機能 / 改良点	対象製品	変更箇所
<p><b>コマンドバーでのプリセット表示の向上</b></p> <p>プリセットをコマンドバーに表示した場合の動作は下記のとおりです（設定は「オプション（Option）」&gt;「キーボードショートカットの編集（Customize commands）」画面で「バー（Bar）」欄にチェックして行います）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼プリセットがメディアのサブメニューに含まれている場合、コマンドバーにフォルダーが表示されます（ひとつのコマンドバーボタンに複数のプリセットをグループ表示可）</li> <li>▼プリセットがサブメニューに含まれ（ワークスペースレイアウトなど）、このサブメニューがコマンドバーに含まれる場合、サブメニューの一つのボタンがこのコマンドバー上に表示されます（サブメニューに素早くアクセスできる）。</li> <li>▼コマンドバー上のボタンがカスタムプリセットの場合、ポップアップするツールチップがプリセット名を太字で表示します。</li> </ul>	WaveLab 7	ユーザーインターフェース
<p><b>コマンドバー上に外部ツールのプリセットを表示可能</b></p> <p>コマンドバー上によく使う外部ツールのプリセットを表示できます。</p> <p>設定は「ツール（Tools）」メニュー&gt;「外部ツールを構成（Configure external tools）」で、WaveLabと共によく使用する他のアプリケーションを指定してプリセットを作成後、「オプション（Option）」&gt;「キーボードショートカットの編集（Customize commands）」画面で、作成したプリセット名を検索して、表示されたプリセットの「バー（Bar）」欄にチェックします。</p>	WaveLab 7	ユーザーインターフェース
<p><b>「バックグラウンドのタスク（Background tasks）」の経過時間表示</b></p> <p>「バックグラウンドのタスク（Background tasks）」画面に、「経過時間（Elapsed）」を追加しました。</p>	WaveLab 7	ユーザーインターフェース
<p><b>「時間のかかるタスクは完了時にサウンドを再生する（Play a sound when a long task completes）」</b></p> <p>このオプションは、Windowsの場合「オプション（Options）」メニュー、Macの場合「WaveLab」メニュー&gt;「環境設定（Preference）」&gt;「オプション（Options）」で設定できます。WAVファイルかAIFFファイルの場合に有効です。</p>	WaveLab 7	ユーザーインターフェース